

2008 年 7 月 4 日



大型グラブ浚渫船「讃岐号（さぬきごう）」完成

～環境対応型密閉式エコグラブを装備～

東洋建設株式会社(社長 赤井 憲彦)は、中期経営計画における基本戦略である、海上土木強化策の一環として、昨年度より高精度・高効率の最新鋭浚渫船「讃岐号」の建造をすすめておりましたが、この度完成し、7月1日、香川県高松市において完成披露式典を開催しました。

「讃岐号」は、当社がグループ会社のタチバナ工業株式会社および株式会社トマックと共同で建造したグラブ浚渫船で、総工費約 19 億円の大型設備投資となりました。

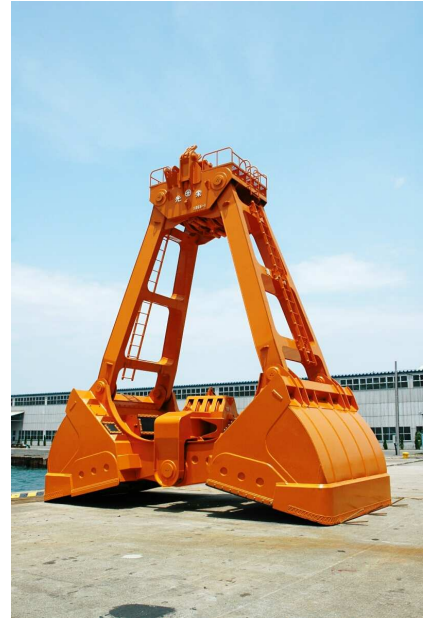
装備されるグラブバケットは3種類、26 立方メートルの普通型バケットのほか、軟泥掘削時の汚濁水流出を防ぐ環境対応型密閉式バケット（エコグラブ）は、クラス最大級となる 32 立方メートルの土砂をつかむことができ、硬土盤の掘削が可能な 90t ヘビータイプグラブバケットも装備しております。搭載した新水平制御装置は、深度停止をセンチ単位でコントロールすることを可能にしました。

最大浚渫深度は水面下 60mに達します。船体両舷には、クラス最長となる 40m丸スパッドを備えるほか、船尾にも 40mキック式スパッドを配置しており、大深度や狭い海域の移動に威力を発揮します。また大容量のウィンチ・ウインドラスなどスパッドが使用できない水域に対する対応も万全です。

50t 砕岩棒、150t クレーン作業への用途切替え、RTK-GPS グラブ浚渫施工管理システムによるリアルタイム位置出しなど、数々の装備と機能を持つ一方、低排出ガス・低騒音型エンジン・燃料タンクの二重化構造など、環境・安全面にも配慮した高精度な浚渫が可能となりました。

「讃岐号」は、当グループが長年海上工事で培ったノウハウと技術力を結集して造り上げた最新鋭のグラブ浚渫船であり、技術提案や作業効率が求められる総合評価方式入札においては、高評価に繋がる性能を備え、大深度化する今日の港湾整備事業において、数多くの事業に活躍の場を広げる作業船であると確信しております。

問い合わせ先
東洋建設株式会社企画部
広報課長 濱田敏弘
電話 03-6361-5461



32 m³ エコグラブ

